

学級経営 虎の巻

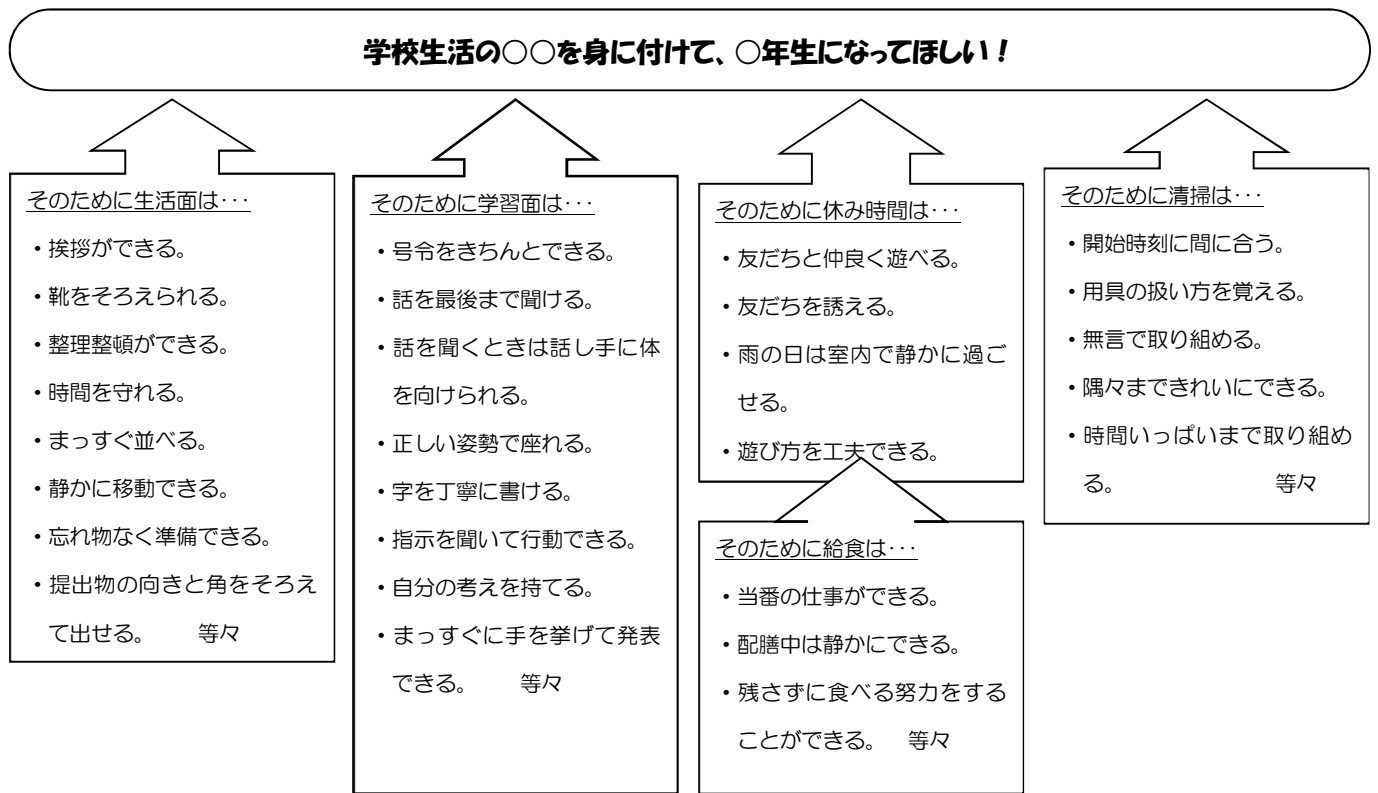
はじめに

これは先生方のお力になればと作成したものです。これを全部やりましょうということではありません。この中から自分はこれをやってみようかなと思ってもらえれば幸いです。いろいろ実践がありますが、1番大切なのは「子どもたちのために」という教師の思い、愛情だと思えます。そして、全ては先生方と子どもたちが楽しい学級となることを願って作成されています。

学級を開くときには

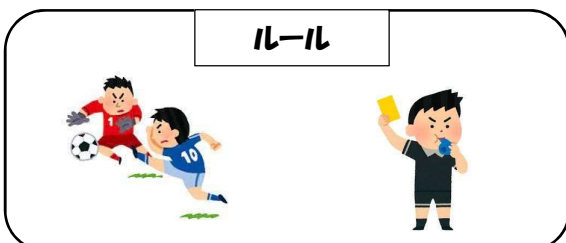
① 指導の基準を持つ！

まずは、「今、どうするのが正しいのか」を教えます。その学年の時点で身に付けてほしいことをゴールとして設定し、指導の基準としています。その根拠となる彥成のルール、児童の実態、指導観を自分の中で整理しましょう。



② 子供に分かるように経営理念や経営方針、行動理念を示す

どのような学級にしたいか、きちんと伝えなければ、子どもは学校生活に不安を感じたり、教師の指導がぶれやすくなったりし、学級の荒れにつながります。1つ1つの指導が、何のためにされているのかを子供が分かるようにすることが大切です。 〇年〇組の約束 など、教師の考え方や学級のルール等をつくる



ルールという枠組みの中での自由であることが大切です。(例：サッカーではハンドやオフサイドなどのブシないルール(基準)があるから安心安全にプレーに集中できる)

学級開き 例 ※ダメなものはダメだということを先に掲示

【全力】

どんなことにも全力で取り組みましょう。先生も全力でみんなのために頑張ります。できるのに手をぬいていたり、あきらめてやる気を出してなかったりしたら許しません。何事も全力でできるクラスにしていきましょう。

【友情】

みなさん、友達大切にしましょう。ここで出会った仲間はかけがえのない宝物です。そのため、友達に対して、傷つく言葉や行動は絶対に許しません。みんなには友達の良いところをたくさん見つけ、共に伸ばしてあげる人になってほしいです。そのためには言葉遣いに気をつけたり、自分から友達が喜ぶことをしたりしていきましょう。思いやりあふれるクラスにしていきましょう。

【学級】

みんなでたくさん笑顔をつくっていきましょう。そのために、係活動や学級会でたくさん2組だけのイベントやクラスオリジナルのものをつくっていきましょう。昼休みは毎日全員遊びをしましょう。クラスみんなで過ごすことで絆を深めましょう。クラスのことを考えず、自分勝手な行動は許しません。最高のクラスをみんなで作っていきましょう。

学びに向かう力

③ 「やるべきことはやる」を徹底する！

考えて行動できるようになっても、途中で投げ出したり諦めたりするようでは意味がありません。「やるべきことは最後までやり遂げることも大切にしてほしい」と考えています。諦めたらそれ以上は力が付かないことも指導し、自分のためになるのは「やる」なのか「諦める」なのかを徐々に自分で選択させていきます。

・練習、宿題、計算ドリルや漢字ドリル等の課題、プリントやテストの直し 等

④ 何事にも目標をもって取り組む児童を育てる

様々な活動において目標を持たせ、努力をさせる。成長と一緒に喜ぶ。例えば、6年生が『1+1=』を正解しても、「成長したなあ！」と感じることはできない。学年や個々の児童生徒の発達段階に合わせた成功体験が必要である。学級経営において“モノ”とはいろいろあるが、その成功体験の積み重ねによって児童生徒が人間的にも成長していくのである。

- ・陸上大会でなわとび4分間跳びきる
- ・漢字の50問テストで90点以上を取る
- ・リーダーシップとフォロワーシップの育成

係活動、委員会活動、児童会活動、学校行事、学期末のお楽しみ会、班活動などなど、さまざまな場面で、全員がリーダーとフォロワーを意図的に経験させることが大切である。ここで、重要なことは、“簡単にクリアできるものでは意味がない”ということである。

力でYESマンをつくらない
気持ちがいいのは教師だけ

⑤ 考えて行動する場面を多く設ける！

できることが増えてきたら、**自分たちで考えて行動できる**ようにするために、生活面でも学習面でも「考える場面」を意図的に設定しています。それが正しいことか、うまくいっているかを見届けたり、そうでない場合にどうしたらよいかを一緒に考えたりすることも大切にしています。

(例) 生活面……時間の使い方、係の仕事、目配り 等

学習面……どうしたい?、どうする?、なぜそうなる?、どうしたらみんなに伝わる? 等
※最初のうちは2択や3択からの選択式、徐々に自分で考えられるように…と、発達段階に応じて
変えています。

⑥ 学びに向かう力を見に付けさせる

どんな児童にも得意不得意があるので、苦手意識も当然あって当たり前で、それを否定はしません。
しかし、苦手だからこそ頑張らせたいし、得意だからこそ、さらなる高みを目指せる児童に育てていきたい
ものです。

・ 全員挙手する場面をたくさん作る

分かっているのに手を挙げない児童ほど許せないものではありません。最初、「この文を読んでくれる人」
や「号令をかけてくれる人」など、誰でもできることを発言し、全員手を挙げさせます。そこで「見てご
らん。全員手を挙げてるよ。これが全力で取り組む姿だよね!」と学級開きで話したことや学級目標とつ
なげ、大いに褒めます。

視点が大切! わくわく・めきめき
ドリル的なものだけでなく、興味に基づき
調べる(わくわく)

・ 自主学習がよくできている児童を目に見える形で紹介する。

自主学習がよくできている児童のノートを教室に掲示する。全体に広めることで、やり方が不十分な児童
も目で見分けるようにさせる。また、よくできている児童は刺激になる。たいてい一度載った児童はま
た載りたいとなり、あえて違う児童のノートを掲示して切磋琢磨させる。また、自主学習ノートを一冊終
えるごとに教室に掲示し、さらに意欲を高めさせる。

(例) 黒板上に掲示、教室後ろに重ねてタワーのように掲示、良いページだけ集めて一つの参考集 など

・ 漢字ドリルの進め方

①音読3回「読み、文例、熟語」

②書き順の声を出しながら「大きな漢字」を指なぞり3回

③書き順の声を出しながら「1、1、2、1、2、3…」と1画目に戻りながら「大きな漢字」を指なぞり
3回

④書き順の声を出しながら空書き3回

⑤1ミリもはみ出さずに鉛筆でなぞる

⑥丁寧に鉛筆でマスをうめる

⑦1ページできたら教師に見せる

※ここではきびしくチェックする!

きちんとできているかをチェックに加えて、5つの漢字の中からランダムで漢字を選び、熟語を3つ言わ
せる。他にも書き順や空書きなどをおりませる。

⑧合格印をもらったら次のページへ進み、①から繰り返す

最初のうちはこのやり方を徹底するため、授業の時間を使って全体で進めます。やり方が子どもに身に
付いたら「自分のペース」でやらせます。

⑦ 成長的思考の浸透

練習、忍耐や努力で、人はいくらでも学び、成長できるという思考。成長的思考の人は、失敗
や恥を恐れず、自信を持って新しいことに挑戦し、常に成長することに価値を置いている。積極
的な失敗は、失敗ではない(例:算数の授業で、答えを発表したら間違っていた)。

「教室は間違うところだ」

教師との信頼関係

⑧ 成長やよい行いを積極的に褒める！

子どもたちが周りに目を向けられるようになると、指導や注意をされている場面にも目がいきがちになります。これを続けていくと、子どもたち同士の関係に上下が生まれかねません。そうならないためにも、子どもたち同士では気付きにくいことや、一見すると当たり前に見えることでもどんどん拾って褒めるようにしています。もちろん褒めるときは本心で褒めます。

ちなみに、**学年を褒めるとき**……主に全員で成長できている良さを味わってほしいとき。

「並ぶのが早くなったね！」「静かに移動できるようになったね！」

学級を褒めるとき……主に集団で生活する良さを味わってほしいとき。

「みんなは友だちを大切にできるすてきなクラスだね！」

個人を褒めるとき……主にその児童の良さを広めたいときや、行いを広めたいとき

「〇〇さんは毎日丁寧に宿題を頑張っているんだよ！」

「〇〇さんが、落ちていたごみを拾ってくれたおかげで、みんなが気持ちよく過ごせるね！」

等、意図をもって褒めることも意識しています。何でもかんでも褒めまくるのではなく、子どもたちにとって意味のある場面にしたいと思っています。

ほめる3:1 (理想は6:1)
心から褒める ←表面的なものは児童が分かる

⑨ 児童理解に努める

よい学級経営を目指すうえで、児童理解は欠かせない。児童同士の人間関係の把握や、1人1人の得意なことや苦手なこと、日頃からたくさんの情報を集めるために、児童とたくさんかかわった方がよい。

- ・休み時間だれとだれが一緒にいるか、遊びながらしてみる
- ・毎日、全員と一回は必ず話す
- ・休み時間は一緒に遊ぶ
- ・机間巡視をしながら児童の意見に〇をつけたり、ノートの考えに目を通したりする

⑩ 指導をしたら、必ず見届けと評価をする

「やってみせ、言って聞かせてさせてみせ、ほめてやらねば人は動かじ」褒めるためにはきちんとした見届けが必要で、適当な褒めは響かない。

- ・生活目標を指導したら、毎日見届け、帰りの会で評価する
- ・返事を指導したら、あらゆる場面で見届けを行い、適宜指導をする

良好な友人関係を築くために

⑪ 互いの良さに目を向ける場面を多く設ける！

自分のことができるようになってきたら、周りに目を向ける機会を意図的に設定。「良好な人間関係がより豊かな生活につながっていくこと」を感じてもらうため。また、配慮を要する児童がいても大切な仲間という空気をつくる。

- ・帰りの会での「今日のキラリ」……日直が友だちの良いところを発表する。

○人をほめると、自分も幸せになる

- ・ぽかぽかレター……友だちの良いところを手紙に書いて掲示する。

⑫ 共に学び合う姿勢をつくる

学校生活の大半は授業です。子どもたち同士の絆を深めていくのもこの授業の時間は欠かせないものです。1番は子どもたち同士が共に学び合って、高め合える関係を築くことだと考えます。

発表する子がいる時には必ず、「ひざ」と「へそ」を向けさせ話を聞かせます。

→これは、自分が発表する時に友達が見てくれていなかったらどんな気持ちになる？と問いかけます。すると、「寂しい」「悲しい」と答えるでしょう。そんなクラスでいいわけありません。ただやらせるのではなく、子どもたちに考えさせることで、行動に意味を持ち、深まっていきます。

ペア活動、グループ活動を積極的に取り入れる。

→国語、算数、理科、社会、体育、道徳…全ての教科においてペア、グループ活動を取り入れ、常に仲間を意識させます。「自分はできたけど、友達はどうかな。」反対に「自分はできないけど、あの子を参考にしよう。」「質問しよう。」「聞いて分かった。」こういった経験の積み重ねが話し合い活動を活発にさせていきます。

居心地のよい学級づくり

⑬ 学級で一緒に過ごす時間を大切に！

互いに目が向くようになると、少しずつ友だちの輪が広がっていきます。そこで、「集団で過ごす楽しさや居心地の良さ」を感じられるように学級で過ごす時間を大切にしています。このときにうまく輪に入れない児童には進んで声を掛け、子どもたち同士をつなぐ役割をするようにしています。

- ・学級目標づくり、クラスのキャラクターづくり、旗づくり、クラス遊び、合言葉

⑭ 安心、安全な環境づくり

学びの場が安心、安全であることで児童生徒は意欲的、主体的に学びを得ることができる。

- ・「三郷市授業の心得」の徹底
- ・教室の心地よい雰囲気づくり 掲示物の充実、ロッカーの整理整頓など
- ・ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターを活用

学びの場が安全、安心と感ずるためには、人間関係を充実させることも重要である。

ソーシャルスキルトレーニングとは、ソーシャルスキル（「対人関係を営む知識と技術」）をトレーニング（練習）です。自転車の上手い乗り方、下手な乗り方があるのと同じで、人との付き合い方にも上手い下手があります。子供たちは、上手い付き合い方を“知らない”ので、経験させてあげる必要があります。

構成的グループエンカウンターとは、集団学習体験を通して、自己発見による行動の変容と人間的な自己成長をねらい、本音と本音の交流や感情交流ができる親密な人間関係づくりを援助するための手法です。

学習活動で取り扱う課題（エクササイズ）には、自己理解、他者理解、自己主張、自己受容、信頼体験、感受性の促進の6つのねらいが組み込まれています。

⑮ 真面目に頑張っている子が損をしないクラス作り

誰かは一生懸命頑張っていて誰かはそうではないということがあ（不公平）学級では落ち着いた環境にはなりません。そうならないように③のようにやるべきことを徹底させたり、頑張っている子が光る働きかけをしたりすることも大切です。

- ・時間を守らせる。1秒でも許してはいけません。
- ・話をする時には姿勢を全員整えさせる
- ・自主学習、漢字ドリルなどどんどん進める子に目に見える形で良いことを など

教師として

みなさんは教育をつかさどるプロです。それは、目の前の子どもたちにしたら年次は関係ありません。みなさんが子どもたちにとってすべてです。大切な子どもの1年間を預かる身として自覚と責任をもち、誇りをもって務めていくべきだと思います。しかし、真面目ばかりではなく、遊び心も忘れず、めりはりをもつことが大切です。

⑩ 学び続ける教師

自分の指導法が、このさきの社会にもずっと通用するかどうかは分からない。自分の考えに執着しすぎず、その時代に求められる教育は何かを学び続けることも必要。時には、自分よりも若い先生からも教えてもらうことがあるかもしれない。日頃から驕らず謙虚な姿勢で学び続けていくことが、子どもと接するときにも必ずよい影響を与える。

- ・他の教師が面白い教具を使っていたり、指導法をしたりしていたら真似をしてみる
- ・日々、新しい情報を仕入れる
(本を読む。校内、校外の研究授業を参観する。研修会に参加してみる など)

⑪ 自分が模範を示す

「率先垂範」という言葉があるように「自分が手本となる」という姿勢で教師をすることがよい学級経営には重要です。言葉でいろいろ言うよりも、姿を見せたほうがちゃんと伝わります。

- ・身の回りのごみを教師が拾っている姿を見せる
- ・周りの人にしっかりとあいさつする姿を見せる
- ・授業の開始、終了の時刻を守る
- ・廊下、階段の歩行のしかた
- ・言葉づかいや話をするときの姿勢 など

子どもたちにこうであってほしいことを教師がしていることで良きお手本となります。

⑫ 教師の本当の愛情

学級経営の根本的な土台部分。これながなくして、良い学級はつくれな。教師は子どもの教育を任せられ、将来の人材を育成する誇りある職業です。やりがいは様々なところにあります。それはきっと人によって違うでしょう。

- ・休み時間に子どもたちと遊んでいるとき
- ・子どもの学力、運動の結果がのびたとき
- ・ささいなことでも、できるようになったとき

(給食の食べられる量が増えた、好き嫌いが減った、ちゃんと座れるようになった)

- ・子どもが悩みを打ち明けてきてくれたとき など

子どもはその人がどれだけ本気で自分を気にしてくれているか分かる。

→自分が愛した分しか返ってこない!

「子どもたちのために」という思いがやりがいは違えど大切だと思います。子どもたちのために自分ができることは何かを考え、これまでに書いたようなことを取り組んでいくことが教師としての情熱です。

⑬ 保護者との関わり方

教師は学級全員を見ていますが、保護者は自分の子どもだけを見ています。保護者の方はどれだけ自分の子を見ているか、我が子の成長に即した適切な指導はされているかなど気になるものです。保護者の願いに寄り添いながら進めていきたいものです。そして、保護者との信頼関係は子どもからです。子どもとの信頼関係を築き、保護者との信頼関係を築いていきましょう。

- ・保護者からの電話(要望)の時こそ信頼関係につながるチャンス ねぎらい→傾聴→助言
- ・何かあった時には子供が帰る前に連絡(けが、けんか、悩みや前に比べてここが良くなった など)
- ・学級通信(学級の様子、児童の頑張り、教師の願いなど)

何事もまずは共感!そして、一緒に子どものためにできることはないかを考える姿勢が大切です!